

公益社団法人足立法人会 会長賞

「大人になったら」

足立区立 谷中中学校

三年 三橋 百華

「税」がどのようなところで使われているのか、あなたは考えたことがあるだろうか。私はある。私は本が大好きだ。そのため、気になる本がでると喜んで書店に買いに行く。そんなときに私のお小遣いをよく圧迫するもの、それこそが税金だ。「あつ、税抜きだったら七百円で足りたのに。十%は中学生にはきついな。」いつもそんなことを思いながら、本を買っていた。しかし、税金が沢山の人を助けていることは知っていたので、内心悲しくなりながらも納得している自分もいた。

そんなときに学校から税に関する作文の宿題が出た。その時私は思った。何に税金が使われているのか徹底的に調べるしかない、と。調べてみると、教科書、教室の机や椅子、私が毎日使っている校舎でさえ、税金が使われているということがわかった。つまり、私たち中学生の生活は税金を納める人たちに支えられ、暮らしているということである。また、私が愛用する図書館にも沢山の税金が使われていた。例えば、足立区中央図書館の図書購入費用は、一年間で約三千五百万円であり、それらの本すべてが税金で買われているそうだ。公共図書館は全国で三千館以上あり、一つの都道府県に少なくとも二十館はある。図書館が様々な場所があり、無料で不自由なく使うことができるのは、税金があるからこそ実現したことなのだ。そして税金は実には国をも支えている。

実は、国の収入の五十%以上が税金なのだ。調べれば調べるほど税金は沢山の場所で使われていて、私達の身近な場所に存在しているということがわかった。

私は調べながら不意に思った。税金を払っている人は一生懸命働いている大人たちだ。そんな人たちはどうして知らない子供たちのために税金を払えるのか。考えていると、一つの考えが浮かんだ。その人達が子供だったころも税金に支えられていたはず。そしてある答えにたどりついた。今税金を払っている人々がまだ子供だったときに、自分が受けた税金への感謝や、次世代の子供たちへの期待が税金として私達に返ってきているのではないか。いわば、税金は私達「未来の世代」に対しての投資なのだ。次世代からさらに次の世代へ、そんな未来への期待と希望が税金という形になり、長い歴史のリレーのバトンとして私達に受け継がれたのだ。

これから成長していくと、私達を今まで支えてくれた税金のバトンを渡される時が来る。支えてもらった側から支える側へ未来へのリレーを繋いでいくのだ。きつと、大きな問題に直面することもあるだろう。そんなとき、私達が成長し、変化するように税金もその時代に合った変化を遂げる。今の社会に合ったものを目指し、私達と一緒に社会を支え続けるのだ。私は大人になったら、税金を必ず納めたい。そうして、皆の税金が社会を築き、未来の世代を支え続けていくのだ。